

# 公明党



門田 雅彦  
議員

## クラウドコンピューティングの導入について

問

地震を含むさまざまな災害から情報を守る危機管理の一環として、クラウドコンピューティングが注目されている。今回震災では、情報を手元に置くより専門業者に預けた方が安く済んだ。遠隔地の巨大なサーバー群に情報を預け、インターネット経由で利用するこのシステムの導入についての考えは。

答

導入については、22年度、国の「自治体クラウド導入可能性検証実験」に本市も積極的に参加し、情報セキュリティの確保や業務標準化の可能性等の検証を行った。本年度実施が予定されている研究会にも、可能な限り参加していきたい。

問

防災士とは、自助・互助・協働を原則として、公助との連携充実に努め、社会のさまざまな場で減災と防災力向上に向け活動するための十分な知識、技能を有する者として認められた人である。①本市における防災士有資格者の人数は。②防災士有資格者を地域に一定数確保することについてどう考えるか。

答

①本市では現在9人の方が日本防災士会広島県支部に登録されており、防災講演会の講師や防災訓練の実技指導など、地域におけるさまざまな防災活動に取り組まれている。②市民の防災意識の高揚に向けた啓発活動など、防災士の皆さんと連携していく。

# 防災士資格者について

る。将来の本市を担う人材を輩出する使命が市立大学にあるのではないか。②公開講座とは別に、地域学の一般聴講の可能性についての考えは。



福山市立大学の講義風景

# 市民連合



西本 章  
議員

## 児童虐待の実態と対策について

問

本市の児童虐待は増加しており、加害者の77%は実母である。2005年に児童虐待防止等ネットワークを設置し、未然防止などに取り組んできたが、加害者をつくり出さないための取り組みをどう構築するのか。

答

児童虐待の背景には、地域における人間関係の希薄化による

子育て力の低下、保護者の育児不安や孤立化、経済的な問題などが複雑に絡んでいるため、子どもだけでなく、支援を求める保護者を見逃さないよう児童虐待防止等

複雑な事象を学習することで、地域と向き合う視点を養成することで、地元企業への就職機会を高め、将来の本市を担う人材育成につなげる。②一般聴講については、生涯学習や地域の活性化を担う人材育成の観点から検討していく。

①\*「地域学」は、それを学ぶことで地域への愛着や誇りが芽生え、受講した学生が将来的に市内の企業等に就職し、定住するための大切な要素と考える。

\*地域学：福山市の歴史や文化、地理や産業など、福山で学び生活していく上で基本的な教養として身につけてほしい知識・情報について学ぶ福山市立大学の履修科目。